

## 今年の恵方は南南東！名古屋の節分巡り

2月3日は節分でした。「豆まき」でおなじみの節分ですが、名古屋では、尾張四観音（笠寺、甚目寺、荒子、龍泉寺）や大須観音へ出かける人が多いようです。これら五つのお寺を巡ってみました。

今年の恵方は南南東。ということで、まずは今年の恵方にあたる笠寺観音を訪ねました。尾張四観音では、毎年いずれかのお寺が恵方を受け持っており、恵方のお寺には特に多くの人を訪れます。

午前10時前、名鉄本笠寺の駅を降りると、すでに多くの人で賑わっていました。境内へと続く道の両側にはずらりと露店が並び、5分ほど歩くと西門に着きました。本堂前には、鬼とお多福の絵が掲げられ、節分の雰囲気を引き立てていました。本堂に入ると天井にはたくさんの千羽鶴。豆まきのご本尊に向かって行われているので、あまり目立ちませんが、本堂内はお参りをする人や福豆・福ひいらぎを買い求める人でごった返していました。福豆を購入して、次の目的地の甚目寺へ。



笠寺観音の様子



笠寺観音の本堂内

甚目寺は名古屋市外（あま市）ですが、名鉄津島線に乗ると意外に早く到着。

甚目寺駅から甚目寺へ向かう途中では、通り沿いのお菓子屋さん、米屋さん、畳屋さん、布団屋さんなどが、節分用の商品を販売していました（置物用のミニ畳やミニ座布団など）。

しばらく歩くと甚目寺の東門が見えてきます。甚目寺には、この東門を含め、仁王門、三重塔の3棟の重要文化財があります。本堂は、新しく建て替えられています。甚目寺では本堂前に舞台が設けられて豆まきが行



甚目寺の東門（重要文化財）



甚目寺の豆まき

われていました。豆をまき終わると、「シャノ、シャノ、シャ、オシャシャノシヤ、ヨヨイノヨイ」という独特の掛け声で締めることになっているようです。

境内では、閻魔様が有名な十王の像が安置された十王堂なども見ることができました。

名古屋駅に戻ると、今度はあおなみ線に乗り換えて荒子観音へ。名古屋駅からわずか3駅。荒子駅に着くと、荒子出身の武将として知られる前田利家の銅像が出迎えてくれます。

荒子観音では、本堂から外に向かって豆まきが行われるので、豆を目的に多くの人が本堂前に集まっています。ここの豆は袋に入っており、拾いやすくなっていますが、混雑する中で豆を手に入れるのは至難の業。ということで、本堂脇で売られていた豆を購入しました。

荒子観音境内にある多宝塔は、名古屋市内で最古の木造建築ともいわれ、重要文化財に指定されています。この日は、塔の扉が開かれ、中の仏像も見ることができました。



荒子観音境内、左は重文の多宝塔



荒子観音の豆まき

再びあおなみ線に乗って名古屋へ戻り、ここで一旦四観音を離れて大須へ。大須観音の節分祭が目当てでしたが、万松寺でも豆まきをやっていたので、少しのぞいてみました。万松寺は、織田信長の父・信秀のお墓があることでも知られていますが、外観は商店街に溶け込んでいます。本堂の中で豆まきが行われていました。

大須商店街は大変な人出で、大須観音にたどり着くのも一苦労。

大須観音の豆まきは本堂前の特設ステージで行われます。大須観音では寺宝が鬼面であるため、「鬼は外」は禁句で「福は内」とだけ言って豆をまきます。ステージ下では大勢の人が豆を待ち構えていました。本堂にお



大須の賑わい



大須観音の豆まき

参りしたかったのですが、人が多過ぎて断念…やはり大須は、名古屋の市街地にあるだけあって雰囲気華やかに感じました。再び大須商店街を抜けて最後の目的地、龍泉寺へ向かいます。

龍泉寺へは、大曾根からガイドウェイバスの「ゆとりーとライン」で15分程度。小幡緑地で下車して、龍泉寺への坂を登ります。坂を登り切ると重要文化財の仁王門が迎えてくれます。

本堂で行われる豆まきは、外に向かって豆がまかれます。龍泉寺では豆をまく人と外の人との距離が近く、和やかな雰囲気でした。



龍泉寺の様子

最後に龍泉寺名物の「春駒」（馬の首をかたどった玩具）を買って帰りました。



今年の節分は穏やかな晴天に恵まれ、日曜日とも重なったことから、どのお寺にも多くの方が訪れたようです。尾張四観音と大須観音、それぞれ見どころのある立派なお寺です。節分に限らず一度出かけてみてはいかがでしょうか。

ちなみに来年の恵方は龍泉寺です。（2013.2.5、S.H）